

まちづくりにおける市民連携 まちに根付くしかけづくり

工学部建設工学科
山中英生

まちづくりの変化

- 【つくる】 【つかう】 発見し活用する。
- 【決まった計画の実行】
【様々な変化への対応】
- 【全国目標達成】 【地域課題の解決】
- 【依存】 【自立】
- 【独裁・官僚・対立】
【多様な主体の参加】 協調・協働・参加

地域に根付くコミュニティビジネス

◆資源

- 地域に存在するものの発見

◆しくみ

- 資源を種にかえる「足りないもの、必要なもの」

◆社会性

- 大切と感じるころ

(新川達郎)

継続し、根付き、自立できるコミュニティビジネスの3つの要素

NPO法人みなとまちづくりファンタジーハーバーこまつしま

小松島みなと交流センターkocolo
(旧南海フェリーターミナル)



「海の茶屋」構想



物産・産直市



ビジターハーバー開港



漁船よこづけ



みなとカフェ魅力度向上 社会実験

◆みなとカフェワークショップ

計3回開催（平成16年10月～）

参加者：18名

ゲストシェフ・市民・市内の高校生・NPO関係者によりみなとカフェの新メニューについて検討



◆カフェ講習会参加

「エコ・コミュニティ・レストラン」

プロジェクト研修会

平成16年12月12日 カフェ担当者1名と、
NPO理事1名が参加

全国の先進事例、メニューづくりの視点などを学ぶことで、カフェ担当者の意識高揚に繋がった



◆【あんシフォン～静御前～】

小松島市に1軒だけ残った徳島県南唯一のあんこ屋さんのあんこを使用したシフォンケーキ：

静御前の温もりをシフォンケーキに託し、しなやかさをパウダーシュガーで表現した
(コーヒーや紅茶とのセットメニューとして好評)



◆【神田茶あんみつ～あんみつの古里・神田の香り】

小松島港に注ぎ込む勝浦川の上流域で昔ながらの製法により製造されている上勝晩茶を使用し海からとれる寒天とのコラボレートにより、小松島のあんこを使ったあんみつが生まれた。

また「あんみつ」は、徳島県出身の俳人・橋本夢道が考案されたと言われている。





屋内常設フリマ



カフェ モーベエ

FGM: 市民プラン会議



物産	道の駅のような場所に, 生産直売農水産物 屋台村, 等
茶屋	他に無い水面利用, 海を生かす, 地元産のものを使った食事, 等
空間	遊歩道, 照明, 緑の整備, 岸壁沿いにウッドデッキコミュニティ小店 舗道路, 屋台横丁, ピアテラス, 等

小松島みなと活性化

◆資源 昔栄えた港 残されたフェリーターミナル 港を懐かしむ市民

◆しくみ NPO フリーマーケット カフェ 食 ヨット

◆社会性 水辺を市民の空間に 新しい港空間づくり

上勝アートプロジェクトの 活動テーマ

- ・ 参加交流型芸術活動による過疎地の持続的地域づくりの展開
- ・ 芸術活動を介した市民行政専門家の多重連携による新たな交流創出

上勝アートプロジェクトの 基本方針

- ・ 上勝町の里山ポテンシャル、風土性、歴史性、環境を把握し、活用する
- ・ 上勝町の産物を活用し、地産地消を目指した活動として展開する
- ・ 上勝町の既活動であるゼロ・ウェイストの視点に立った活動として展開する
- ・ 活動は、町民・町外サポーター・芸術作家・行政・まちづくり専門家等との協働により展開する

里山アート事例
【越後妻有 大地の芸術祭】

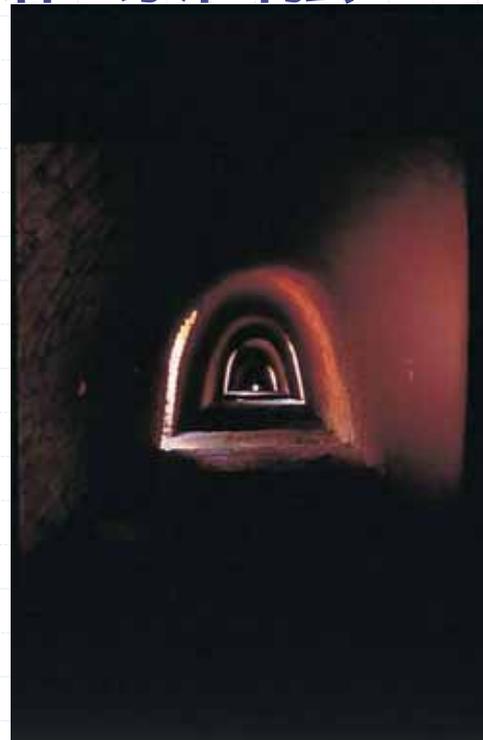
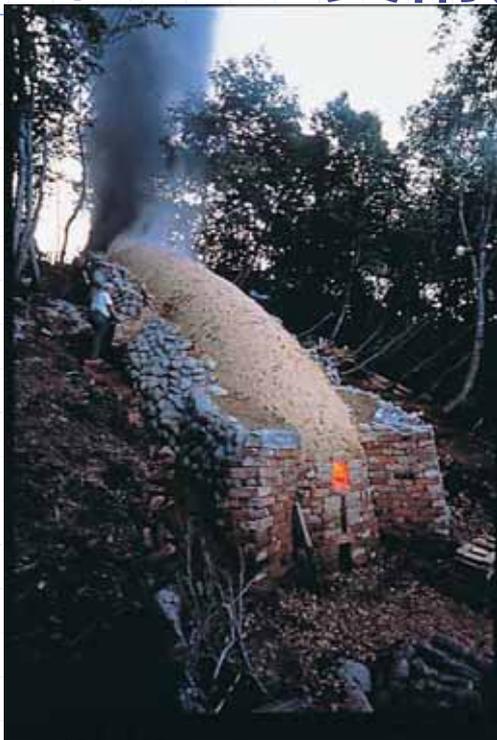
写真撮影:安斎重男 出典:大地の芸術祭 越後妻有アート
リエナーレ2000(越後妻有大地の芸術祭実行委員会)

棚守る龍神の御座 國安孝昌



写真撮影:安斎重男 出典:大地の芸術祭 越後妻有アート
リエナーレ2000(越後妻有大地の芸術祭実行委員会)

ドラゴン美術館 蔡國強



まちづくりにアートのもつ意味

- ◆ 価値としてのアート
 - いい物, 時間 + お金 + 労力をかけてもいい物
- ◆ 無価値としてのアート
 - お金儲け, 私的財, いかかわしさのない物
- ◆ 空間づくりとしてのアート
 - 場所づくり, シンボル作り, ストーリーづくり
- ◆ = 資源と社会性の創出
 - マネジメント = しかけが必要